

## 臨地実習施設と大学の連携に関する文献検討

### A review of the literature on coordination between facilities conducting practical training and universities

平井三重子

Mieko Hirai

#### 要約

【目的】 臨地実習施設と大学の連携に関する文献検討を行い、効果的な連携のあり方の示唆を得る。

【方法】 医中誌 Web, CiNii, メディカルオンラインを用いて検索した。キーワードは、「大学」AND「実習施設」AND「連携」とした。

【結果】 12件を本研究の対象文献とした。概要は、実習施設と大学との連携によるユニフィケーション活動が2件、臨地実習での学生指導の役割分担が1件、実習施設と大学との調整が4件、実習前の準備と指導者の役割が5件であった。

【結論】 1. 看護の実践・教育・研究面で連携を促進するためには、看護連携型ユニフィケーション事業を推進する。2. 臨地実習において、臨地実習施設と連携をとり役割分担を明確にし、臨地実習を効果的に進められるよう教員はマネジメントしていく。3. 早い時期から臨地実習施設と大学が連携して、連絡会議のプログラムを構築する。4. 今後、臨地実習施設との連携による教育プログラムの開発を進めることである。

#### Abstract

Objectives: To conduct a review of the literature on coordination between facilities conducting practical training and universities and to gain insight into effective coordination. Methods: The databases Ichushi Web, CiNii, and Medical Online were searched using the keywords “university” AND “facilities conducting training” AND “coordination.” Results: Twelve articles were examined in this study. The overview is Two unification activities in collaboration with facilities conducting practical training and universities, 1 article on the division of roles in practical training, 4 articles on coordination between facilities conducting training and universities, and 5 articles on specific efforts. Conclusions: 1) In order to promote coordination between practical, educational, and research aspects of nursing, the project to unify care should be promoted. 2) Faculty members should oversee practical training by coordinating with facilities conducting that training and clearly defining roles so that practical training is effectively conducted. 3) A program of coordination meetings should be created by coordinating between facilities conducting practical training and universities starting in the early period. 4) In the future, we will continue to develop educational programs in collaboration with facilities conducting practical training

キーワード：臨地実習，臨地実習施設，大学，連絡会議，連携・協働

**Keyword:** practical training, facilities conducting practical training, universities, coordination meeting, coordination and collaboration

## I. 緒言

看護基礎教育において看護学実習について、杉森・舟島は、看護学実習とは「あらゆる看護の場において、各看護学の講義、演習により得た科学的知識、技術を実際の患者・クライアントを対象に実践し、既習の理論、知識、技術を統合、深化、検証するとともに、看護の社会的価値を顕彰するという授業である」。さらに限定をつけ「学生が既習の知識・技術を基にクライアントと相互行為を展開し、看護目標達成に向かいつつ、そこに生じた現象を教材として、看護実践能力を習得するという学習目標達成を目ざす授業である」と定義している<sup>1)</sup>。

また、平成 29 年（2017 年）に「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」（以下、「看護コアカリ」とする）が文部科学省より提示され、その中の項目 F「臨地実習」にて臨地における実習の学修目標が示されている<sup>2)</sup>。大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（以下、「本検討会」とする）では、看護コアカリに付随する、臨地における実習ガイドライン（以下、「看護学実習ガイドライン」という）をとりまとめられている。

この看護学実習ガイドラインには、看護学実習は、教授学習過程であるため、大学と実習施設との連携と協働がその基盤となる。その大学と実習施設との組織的体制づくりとして、看護学実習において、学生と対象者が安全であり、看護の効果が最大限に引き出されるためには、大学と実習施設が連携・協働体制を整備することが必要である。この指導体制の確立に向け、管理的な立場にある者も参画できる会議の開催や連携促進を目指した研修等を実施する等、両者の連携・調整を図る仕組みを整えることが謳われている<sup>3)</sup>。

このように、看護基礎教育における臨地実習は、極めて重要であり、看護実践能力の育成上においても最も重要であると位置づけられている。

しかしながら、臨床実習指導者は、教員との連携に不安や困難を抱えていた<sup>4)</sup>。また、教員も実習指導者との連携調整の難しさで困っていた<sup>5)</sup>。このような中、実習指導者が指導者としての役割を遂行していくプロセスにおいて、学生指導上の困難を体験した場合、乗り越える要因としては、教員との連携が示唆された<sup>6)</sup>。そして、看護教員が期待する臨地実習指導者の役割として、教員との連携が明らかになっている<sup>7)</sup>。また、近年、実習施設と基礎教育機関が力を合わせて看護基礎教育の質向上を目的とするユニフィケーションシステムが導入されている<sup>8)</sup>。

そこで、本研究の目的は、臨地実習施設と大学の連携に関する文献検討を行い、効果的な連携のあり方の示唆を得ることである。

## II. 方法

### 1. 文献の検索方法

2000 年から 2023 年の 23 年間の論文を対象に、医学中央雑誌 Web 版（以下、医中誌）と、国立情報学研究所学術情報ナビゲータ（以下、CiNii）、メディカルオンラインを用いて検索した。キーワードは、「大学」AND「実習施設」AND「連携」とした。

### 2. 文献の選定方法

上記文献検索の結果、医中誌 50 件、CiNii127 件、メディカルオンライン 78 件を抽出した。このうち、研究対象が海外の大学、看護大学以外、病院実習施設以外、コロナ禍の時期を目的としているもの、重複している文献を除外した。タイトル及び抄録から本研究に適する論文として 12 件の論文を対象とした。

### 3. 分析方法

論文を精読し、本研究の目的に沿って分析項目を筆頭著者・発行年、タイトル、研究目的、対象者・方法・調査期間・デザイン、結果

をまとめた。

#### 4. 倫理的配慮

文献を取り扱う際には、著作権に配慮し、記述されている表現を損なわないように留意し出典を明記した。

### III. 結果

抽出された臨地実習施設と大学の連携に関する 12 件の概要は、実習施設と大学との連携によるユニフィケーション活動が 2 件、臨地実習での役割分担が 1 件、実習施設と大学との調整が 4 件、具体的な取り組みが 5 件であった。表 1 から 4 に示した。

研究対象は、指導者を対象としたものが 4 件、指導者と教員を対象としたものが 2 件、学生を対象としたものが 1 件、学生と指導者を対象としたものが 3 件であった。

#### 1. 実習施設と大学との連携によるユニフィケーション活動 (表 1)

実習施設との連携・協働において実現可能なユニフィケーションモデルがある。付属の実習施設をもたない大学での取り組みとして、看護サービスと教育ならびに研究の責任を一つの管理組織に所属させることである。①共同研究の促進、②実習施設と大学との調整、③臨地実習での役割の明確化、④臨床スタッフの継続教育、⑤臨床スタッフの供給、⑥施設間の情報共有の必要性を示唆している<sup>9)</sup>。

また、教員と指導者の連携について課題を示した。それは、教員・指導者・学生を対象とした同時調査により、具体的な連携内容の明確化と学習効果を明らかにする。相互の多様な指導状況に合わせた連携の具体的方法を考案・システム化する。実習施設と教育機関によるユニフィケーション活動において、大学や病院の特性をふまえた実習指導体制に関するガイドラインを確立する必要性を示唆した<sup>10)</sup>。

#### 2. 臨地実習での学生指導の役割分担 (表 2)

臨床実習施設と連携をとり、臨地実習を効果的に進めるには、次のことが述べられた。臨床側の実習指導者、臨床看護師、教員の実習指導における役割分担の程度を具体的に示していくことである。そのためには、今以上の話し合いをもち、教員が臨地実習の中で果たす役割や調整について、実習施設に提示していくことである。さらに、実習の目標を達成するにあたっての進捗状況や問題点の解決、重要課題についての情報提供をすることなど、率直な交流の必要性を示した<sup>11)</sup>。

#### 3. 実習施設と大学との調整 (表 3)

臨地実習指導者研修会開催で、PBL (Problem-based Learning) の説明とグループ演習は高い評価となった。そのグループ演習において、教員も交えてディスカッションや、情報交換と相互交流が行われたことで、連携や協働についての認識を深められたと報告した<sup>12)</sup>。

また、看護学実習連絡会議で、実習指導者と大学教員を混在してグループ編成し「事例検討」を中心に運営した。その結果、実習指導者と大学教員のコミュニケーションに関連した項目の平均値が高いということが明らかになった。その事例検討を通じて学生の可能性を肯定的に捉える効果が得られたと報告した<sup>13)</sup>。

さらに、臨地実習委員会で、希望する企画・テーマは、実習施設と大学ともに【効果的な臨地教育】であった。また、新カリキュラムの対応や、双方が協働して質の高い臨地教育を行うための「連絡会」づくりの必要性を示している<sup>14)</sup>。

そして、従来の学生の課題共有に加え研修会ならびに施設紹介を取り入れた研修会の方法は、臨地実習施設と大学の双方に学びがあり、連携基盤の強化に寄与した可能性を示唆されている。

表 1. 実習施設と大学との連携によるユニフィケーション活動

筆頭著者 発行年	タイトル	研究目的	1.対象者	2.方法	結果
			3.調査期間	4.デザイン	
高田法子 (2001)	ユニフィケーションモデル (UnificationModel) の検討ー臨床と大学の連携と協働の可能性ー	アメリカや日本で取り組まれているユニフィケーションモデルを複数の文献より本学が取り組み可能なユニフィケーションモデルを考察する	1.アメリカや日本で取り組まれているユニフィケーションモデル 2.MEDLINE, 医中誌 3.1980年~2000年 7月までの文献 4.文献研究		①共同研究の促進 ②実習施設と大学との調整 ③臨地実習での役割の明確化 ④臨床スタッフの継続教育 ⑤臨床スタッフの供給 ⑥施設間の情報共有
ラウ優紀子 (2019)	臨地実習における看護学教員と実習指導者の連携に関する文献検討	臨地実習における看護学教員と実習指導者の連携に関する文献検討を行い、今後の相互の連携のあり方について考察する	1.連携について実践内容の記述がある 10文献 2.医中誌 3.1992年2018年 10月までの文献 4.文献研究		①教員・指導者・学生を対象とした同時調査により、具体的な連携内容の明確化と学修効果を明らかにする。 ②相互の多様な指導状況に合わせた連携の具体的方法を考案しシステム化する。 ③実習施設と教育機関によるユニフィケーション活動では、大学や病院の特性をふまえた実習指導体制に関するガイドラインの確立する。

表 2. 臨地実習での学生指導の役割分担

筆頭著者 発行年	タイトル	研究目的	1.対象	2.方法	結果
			3.調査期間	4.デザイン	
藤田あけみ (2005)	看護学実習における臨床実習施設との連携に関する研究	臨地実習における臨床側の指導体制の現状、実習指導教育の現状、教員、実習指導者の実習の役割分担を明らかにし、連携のあり方について検討する	1.臨地実習を引き受けている 4 病院の実習担当看護職員 580 名、本看護学科臨床実習担当教員 40 名 2.質問紙調査 3.2004年10月15日~11月30日 4.量的研究 内容分析		①臨床側の実習指導者、臨床看護師、教員の实習指導における役割分担の程度を具体的に示す。 ②実習の目標を達成するにあたっての進捗状況や問題点の解決、重要課題についての情報提供など、率直な交流を行う。

表3. 実習施設と大学との調整

筆頭著者 発行年	タイトル	研究目的	1.対象者 2.方法 3.調査期間 4.デザイン	結果
丸山敬子 (2006)	新設看護学 科における 平成18年度 第1回臨地 実習指導者 研修会開催 報告	本学科の看護学 教育への理解と 実習指導方法の 学習、情報交換、 相互交流を通し て看護学教育の 質的向上を図る	1.臨地実習指導者43名 2.質問紙調査 3.研修会当日 4.内容分析	①PBL (Problem-based Learning) の説明とグループ演 習は高い評価となった。 ②グループ演習においては、教 員も交えてディスカッションし たことで、 連携や協働についての認識を深 められた。
古都昌子 (2015)	実習施設と 教育施設と の連携に向 けての具体 的方策 －看護学部 開設3年目 に導入した 看護学実習 連絡会議の 効果－	実習指導者と大 学教員の連携に よる臨地実習指 導の充実に向け て、連携会議の 効果と課題につ いて明らかにし、 今後の連携のあ り方を検討する ための基礎資料 とする	1.臨地実習を受け入れて A病院の実習指導者62 名、臨地実習指導者に関 与している看護学部教 員34名 2.質問紙調査 3.2013年3月28日～ 4月5日 4.量的研究	①実習指導者と大学教員のコミ ュニケーションに関連した項目 の平均値が高いということが明 らかになっていた。 ②事例検討を通じて学生の可能 性を肯定的にとらえる効果が得 られた。
富岡由美 (2018)	実習施設と 大学の連携 に向けた臨 地実習委員 会の取り組 みについて －実習指導 者連絡会報 告－	2017年度の実習 指導者連絡会の 報告と今後の課 題と方向性を明 らかする	1.実習指導者連絡会に参 加した実習指導者77名 2.質問紙調査 3.実習指導者連絡会当日 4.内容分析	①希望する企画・テーマは、実 習施設と大学ともに【効果的な 臨地教育】であった。 ②新カリキュラムの対応や、双 方が協働して質の高い臨地教育 を行うためには「連絡会」づく りが必要と述べた。
糸井和佳 (2019)	臨地実習委 員会2017年 度活動報告 実習施設と 大学の連携 強化を目指 した実習指 導者連絡会 の試み	2017年度の実習 指導者連絡会の 報告とその評価 を行う	1.実習指導者連絡会に参 加した実習指導者60名 2.質問紙調査 3.実習指導者連絡会当日 4.内容分析	①従来の学生の課題共有に加え 研修会ならびに施設紹介を取り 入れた研修会の方法は、臨地実 習施設と大学の双方に学びがあ り、連携基盤の強化に寄与した 可能性が示唆された。

表 4. 実習前の準備と指導者の役割

筆頭著者 発行年	タイトル	研究目的	1.対象者 2.方法 3.調査期間 4.デザイン	結果
横井和美 (2009)	実習指導に 対する取り 組み:成人看 護学実習直 前の技術チ ェックに対 する学生か らの評価	実習事前の看護技 術チェックを担当実 習指導者と共に行 う試みに対する学 生からの評価を学 生アンケートより 分析する	1.2007年度2008 年度3回生成看護 学実習を履修する 56名 2.質問紙調査 3.2007年10月～ 2008年6月 4.質的記述的分析	①成人看護学実習直前の看護技 術チェックに指導者が加わった ことの利点は、【学習への動機づ け】【実習場に対する理解の拡大】 【実習に対する情緒的安定】【技 術チェックへの緊張】が述べられ ていた。
江藤和子 (2012)	精神看護学 における実 習施設との 連携に関す る検討 (第1報)	看護過程演習案を 作成し、実習指導者 の意識を明らかに し、学内演習の課題 と効果を検討する	1.2回参加した実習 指導者4名 2.質問紙調査 3.2011年9月から 12月 4.質的記述的分析	①実習指導者への効果では、学生 の理解につながり、学生の立場に 立って、実習指導を振り返る機会 となった。
椎野雅代 (2012)	精神看護学 における実 習施設との 連携に関す る検討 (第2報)	演習終了後のアン ケートをもとに、実 習指導者が参加す ることへの効果を 明らかにする	1.看護学生76名、 実習指導者4名 2.質問紙調査 3.2011年11月から 12月 4.質的記述的分析	①実習指導者が学校教育を理解 し、学生の看護過程に必要な知識 について理解する経験となった。 ②学生は、実習指導者に意見を受 け入れ、質問に十分に対応しても らえたと感じていたと報告した。
平井純子 (2014)	基礎教育と 実習施設と の連携によ る教育効果 (第1報)	病院指導者による 授業参観の効果を 検証する	1.臨床指導者11名 2年生81名 2.質問紙調査(授業 参観後) 3.演習当日 4.内容分析	①指導者による授業参観は、基礎 教育との連携教育に有効である ことが示唆された。
平井純子 (2016)	基礎教育と 実習施設と の連携によ る教育効果 (第2報)	成人看護学実習I を1週間後に控えた 学生が、臨床指導者 に直接指導を受け た演習の教育効果 を分析し、今後の教 育効果と方向性の 示唆を得る	1.臨床指導者6名、 2年生81名 2.質問紙調査(演習 終了後) 3.2015年1月17 日～11月30日 4.質的記述的分析	①学生は、実習への動機づけと もに今後の学習へ動機づけと なった。 ②指導者は、臨地実習では見るこ とが少ない学内における学生の 強みを実感し、学生の理解につな がったことを報告した。

#### 4. 実習前の準備と指導者の役割 (表4)

成人看護学実習直前の看護技術チェックを担当実習指導者と共に行い、指導者が加わった。その利点は、【学習への動機づけ】【実習場に対する理解の拡大】【実習に対する情緒的安定】【技術チェックへの緊張】などであった。学生は、実習場の情報を早期に収集し実習に対する安心や実習指導者との関わりに安堵感を得ていたことから、この取り組みは、学生にとって有用だったと報告した<sup>16)</sup>。

実習施設との連携をはかり、教員と実習指導者が協働で、精神看護学の看護過程演習案を作成し、学内演習に参加した。実習指導者への効果では、学生の理解につながり、学生の立場に立って、実習指導を振り返る機会となったと報告した<sup>17)</sup>。さらに、実習指導者と学生の両方で検討した結果、実習指導者が学校教育を理解し、実習指導者は学生の看護過程に必要な知識について理解する経験となった。学生は、実習指導者に意見を受け入れ、質問に十分に対応してもらえたと感じていたと報告した<sup>18)</sup>。

病院指導者が、成人看護学演習の授業参観と、その後の成人看護学実習 I までの連携教育をおこなった。その結果、指導者は、演習に参加し学生の学習環境や学習習得状況を把握することで学生の理解に繋がり、その後の実習指導に活かす事ができた。学生は、指導者から具体的な指導を受け、授業で学んだ知識と技術に繋げる事ができた。教員と指導者の事前打ち合わせは、実習目標や指導内容、学生のレディネスなど相互に理解し、共有でき実習指導に活かす事ができた。指導者による授業参観は、基礎教育との連携教育に有効であることが示唆された<sup>19)</sup>。

さらに、成人看護学実習 I を 1 週間後に控えた学生が、臨床指導者に直接指導を受けた演習の教育効果を分析した。その結果、臨床に近い演習環境を設定し演習を進めたことで、演習目的は達成した。学生は、実習への動機

づけとともに、理解不足が多くもっと勉強しなくてはなど今後の学習への動機づけとなった。指導者は、臨地実習では見ることが少ない学内における学生の強みを実感し、学生の理解に繋がったことを報告した<sup>20)</sup>。

### IV. 考察

#### 1. 実習施設と大学との連携によるユニフィケーション活動

看護教育における臨床と教育の乖離という問題に対して、臨床と教育の相互の交流や連携を深める仕組みが必要になっている。米国において 1969 年代にユニフィケーションの取り組みが始まった。日本にも 1980 年代に紹介され、教育、実践、研究の 3 つの機能を連携・協働することより、看護実践の質の向上を図る取り組みが始まっている<sup>21)</sup>。

しかし、ユニフィケーションは、コストや人材確保等の様々な課題を抱えているため実現するための課題が多いことが指摘されている。そのため、付属の実習施設をもたない大学では、①共同研究の促進、②実習施設と大学との調整、③臨地実習での役割の明確化、④臨床スタッフの継続教育、⑤臨床スタッフの供給、⑥施設間の情報共有の取り組みが必要と報告されている<sup>22)</sup>。

また、ユニフィケーションによる連携教育は、大学が付属病院をもたない場合や大学が付属病院をもっている場合、そして、大学が付属病院をもっていないが、長年にわたり実習を受け入れている病院の場合がある。

大学が付属病院をもたない場合は、いかにして、実習施設と連携を図るか課題と考える。

そのような中、実習施設と大学が連携強化する取り組みに「看護連携型ユニフィケーション」がある。基本協定を締結し、看護の実践・教育・研究面で連携を促進している。これらは、看護職者のキャリア形成を継続的に推進し、看護ケアや看護教育の質の向上、看護共同研究を発展させている。加えて質の高い

実習指導の実現や卒業生の実習施設への定着、さらに協働による戦略的な活動の展開が期待できるとされている<sup>23)</sup>。この取り組みが徐々に進められている。

現在、少子・超高齢・多死社会における保健・医療・福祉のパラダイムシフトを迎えている。社会や看護の対象のニーズに応じていくためには、実習施設と大学が連携して、看護職者を育てることが大切である。その連携形態はいろいろあるが、看護の実践・教育・研究面で連携を促進するためには、看護連携型ユニフィケーション事業を推進することが必要であると考えられる。

## 2. 臨地実習での学生指導の役割分担

臨地実習においては臨床スタッフの意見・意向を尊重し、教員は学生と臨床スタッフの橋渡しの役割を果たすことが必要である。そして臨床スタッフとともに、学生にとっての看護者モデルとなる努力が望まれると報告されている<sup>24)</sup>。

2011年3月厚生労働省「看護教育の内容に関する検討報告書」によると、学生の実践能力向上のための教育体制として教員と実習指導者の役割分担と連携が重要と示されている<sup>25)</sup>。

しかし、臨地実習指導者の任命の有無によって、それぞれの役割分担の認識が大きく異なっている。そのため、任命されていない臨床看護師自身、実習指導者の一員であるという意識を高めるような施設側の意識づけや実習前の施設との調整内容について検討する必要がある。そして、臨地実習施設と連携をとり、臨地実習を効果的に進めるには、臨床側の実習指導者、臨床看護師、教員の実習指導における役割分担の程度を具体的に示すことが必要であると報告されている<sup>26)</sup>。

この役割分担の程度を具体的に示していくには、効果的に組織間の調整を行うことが必要であると考えられる。

そのためには、臨地実習において、臨地実習施設と連携をとり役割分担を明確にし、臨地実習を効果的に進められるよう教員は、マネジメントしていく必要があると考える。

## 3. 実習施設と大学との調整

大学の教育方針、実習における学習プロセスとその実習の到達目標を明確に示し、臨床スタッフと目標を共有することで、効果的な実習を展開することができる。そのためには、定期的に大学と実習施設との調整を行い、教員と臨床スタッフとのコミュニケーションを密にする必要性が示唆されている<sup>27)</sup>。

具体的には、実習施設と大学との調整をとるために、臨地実習指導者研修会や看護学実習連絡会議や実習指導者連絡会を通して、連携を取っている。その方法は、実習指導場面実例の課題シートを提示し、臨地実習指導者と教員の混合したグループ演習を実施している<sup>28)</sup>。また実習指導者と大学教員が共同で企画・運営を行い、実習指導者と大学教員を混合してグループ編成し、事例検討を実施している<sup>29)</sup>。さらに、講演会ならびに、学生にむけた実習施設の紹介として就職説明会の形で取り入れ、連携を強化している。その結果、臨地実習施設と大学の双方に学びがあり、連携基盤の強化に寄与したことが報告されている<sup>30)</sup>。

連絡会議などを開催する場合、企画内容は、早い時期から臨地実習施設と大学の双方のニーズアプローチを行い、そのニーズから、プログラムを構築する。プログラム内容は、双方がディスカッションできる形態とし、より連携ができるように、研修・会議内容の精選、等を検討する必要があると考える。

## 4. 実習前の準備と指導者の役割

看護実践能力の向上が求められる今日、技術実践を支える学生の知識や思考力さらに情緒安定への支援において指導者との連携が重



要となる。特に学生は臨地実習に高いストレスを抱いていると報告されていることから臨地実習施設や実習指導者との連携が重要であると述べている<sup>31)</sup>。そのためにいろいろな取り組みが行われていた。

具体的には、実習直前に担当実習指導者と学生が技術演習を通して交流を持ち、情報交換を行うことで、実習指導者との関わりが安堵感を得て、今後の学習へ動機づけとなっている<sup>32)</sup>。また、実習指導者は、教員と実習指導者が協働で看護過程演習案を作成し、学内演習に参加することで、学生の理解につながっている。さらに、実習指導者が大学の演習授業に参加して実習指導につなげる連携教育を実施することは、学生の理解につながり、その後の実習指導に活かすことができたと報告されている<sup>33)</sup>。

学生の看護実践能力を高めるためには、教員と実習指導者間の協力と計画が必要である。実習施設と大学の連携により、臨地実習で学生の効果的な学習の機会を提供することができる。さらに、学内演習での実習指導者との初期段階からの交流は、学生の学習への動機づけを高め、実習への不安を和らげストレスを軽減することができ、より良い学習成果を促すことができると考える。

今後、実習施設との連携による教育プログラムの開発を進めることである。

## V. 結語

12件の文献を検討した結果、臨地実習施設と大学の効果的な連携のあり方について、以下のことが示唆された。

1. 看護の実践・教育・研究面で連携を促進するためには、看護連携型ユニフィケーション事業の推進は重要である。
2. 臨地実習において、臨地実習施設と連携をとり役割分担を明確にし、臨地実習を効果的に進められるよう教員はマネジメントしていく必要がある。

3. 早い時期から臨地実習施設と大学が連携して、連絡会議のプログラムを構築することが必要である。
4. 今後、臨地実習施設との連携による教育プログラムの開発を進めることである。

## 利益相反

本論文に関連して開示すべき利益相反事項はない。

## 文献

- 1) 杉森みどり, 舟島なをみ(2021), 看護教育学, 第7版, 医学書院, 257-258.
- 2) 文部科学省, 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 看護学教育モデル・コア・カリキュム. (2017), <[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf)>, (閲覧日. 2023.8.23).
- 3) 文部科学省, 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会第二次報告 看護学実習ガイドライン. (2020), <[https://www.mext.go.jp/content/20200330mxt\\_igaku-000006272\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200330mxt_igaku-000006272_1.pdf)>, (閲覧日. 2023.8.23).
- 4) 市川睦, 市村ひろみ, 高木典子, 他 (2013), 臨床実習指導における効果的なかわりの検討:指導者の不安や困難と支援について, 茨城県立医療大学附属病院職員研究発表報告集, 16, 1-9.
- 5) 橋本笑子, 加藤かすみ, 伴藤典子, 他(2013), 看護教員の講義, 実習, 生活指導で困っていることの実態, 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 7, 105-112.
- 6) 志田久美子, 袖山悦子, 望月紀子(2011), 実習指導者が指導者としての役割を遂行していく過程とその影響要因, 新潟医療福祉学会誌, 10 (2), 18-23.
- 7) 山田聡子, 太田勝正(2010), 看護教員が期待する臨地実習指導者の役割フォーカスグループインタビューに基づく検討(原著論文), 日本看護学教育学会誌, 20 (2), 1-11.
- 8) 神奈川県における看護教育のあり方検討会, 神奈

川県における看護教育のあり方最終報告. (2012),

〈<https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachm ent/502093.pdf>〉, (閲覧日. 2023.12.1).

9) 高田法子, 平岡敬子(2001), ユニフィケーションモデル(Unification Model)の検討-臨床と大学の連携と協働の可能性-看護学統合研究, 2(2), 1-8.

10) ラウ優紀子, 山本佳代子, 元井好美, 他(2019), 臨地実習における看護学教員と実習指導者の連携に関する文献検討, 横浜創英大学研究論集, 6, 19-27.

11) 藤田あけみ, 吉川由希子, 村松仁, 他(2005), 看護学実習における臨床実習施設との連携に関する研究, 青森県立保健大学雑誌, 6(3), 453-455.

12) 丸山敬子, 阿部明美, 梨本光枝, 他(2006), 新設看護学科における平成18年度第1回臨地実習指導者研修会開催報告-地域連携・協働の臨地実習指導体制へ向けて-, 新潟医療福祉学会誌, 6(1), 108-113.

13) 古都昌子, 古村三千代, 岩本郁子, 他(2015), 実習施設と教育施設との連携に向けての具体的方策-看護学部開設3年目に導入した看護学実習連絡会議の効果-, 札幌市立大学研究論文集, 9(1), 25-30.

14) 富岡由美, 吉田一子, 糸井和佳, 他(2018), 実習施設と大学の連携に向けた臨地実習委員会の取り組みについて-実習指導者連絡会報告-, 帝京科学大学教育・教職研究, 3(2), 65-70.

15) 糸井和佳, 富岡由美, 伊藤靖代, 他(2019), 臨地実習化を目指した実習指導者連絡会の試み, 帝京科学大学紀要, 15, 225-259.

16) 横井和美, 竹村節子, 沖野良枝, 他(2009), 病院・大学連携における実習指導に対する取り組み:実習指導者と連携した成人看護学実習直前の技術チェックに対する学生からの評価(研究ノート), 滋賀県立大学人間看護学部人間看護学研究紀要, 7, 43-52.

17) 江藤和子, 椎野雅代, 福本真也, 他(2012), 精神看護学における実習施設との連携に関する検討(第1報) 教員と実習指導者の実習に活かす授業づくりとは, 日本精神科看護学術集会誌, 55(2), 331-335.

18) 椎野雅代, 江藤和子, 福本真也, 他(2012), 精神看護学における実習施設との連携に関する検討(第2報) 実習指導者参加による学内演習の学生と実習指導者評価, 日本精神科看護学術集会誌, 55(2), 20-

24.

19) 平井純子, 前山直美, 森山恵美, 他(2014), 基礎教育と実習施設との連携による教育効果(第1報), 神奈川歯科大学短期大学部紀要, 1, 65-69.

20) 平井純子, 吉越洋枝, 前山直美(2016), 基礎教育と実習施設との連携による教育効果(第2報), 神奈川歯科大学短期大学部紀要, 3, 35-42.

21) 市村久美子, 旭佐記子, 高村祐子, 他(2011), 茨城県立医療大学と附属病院のユニフィケーションの取り組み, NursungBUSINESS, 6, 43-48.

22) 高田法子, 平岡敬子, 前掲書9), 6.

23) 長野県看護大学, 看護ユニフィケーション事の推進について, 2014, 〈<https://www.Naganonurs.ac.jp/overview/attempt/unification/>〉, (閲覧日. 2023.12.1).

24) 高田法子, 平岡敬子, 前掲書9), 6.

25) 厚生労働省, 看護教育の内容に関する検討報告書. (2011), 〈<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000013l0q-att/2r98520000013l4m.pdf>〉, (閲覧日. 2023.12.1).

26) 藤田あけみ, 吉川由希子, 村松仁他, 前掲書, 11), 455.

27) 高田法子, 平岡敬子, 前掲書9), 6.

28) 丸山敬子, 阿部明美, 梨本光枝, 他, 前掲書, 12), 109.

29) 古都昌子, 古村三千代, 岩本郁子, 他, 前掲書, 13), 25.

30) 糸井和佳, 富岡由美, 伊藤靖代, 他, 前掲書, 15), 259.

31) 横井和美, 竹村節子, 沖野良枝, 他, 前掲書, 16), 51.

32) 横井和美, 竹村節子, 沖野良枝, 他, 前掲書, 16), 43.

33) 江藤和子, 椎野雅代, 福本真也, 他, 前掲書, 17), 331.